

第21話

いつも私のコラムをご覧頂きましてありがとうございます!

さて今回は先月号に続き私の息子のお話です。

…と色々あった息子でしたが京都で美容室を経営している友人が面倒を見てやると言ってくれたので家財道具を  
揃えいやわゆる住み込みでの見習い美容師として働く傍ら、京都の美容専門学校に通信教育生として入学させたのでした。  
初めのうちはおそらくスタッフの皆さんもオーナーの友人の息子と言うことで大目にみて頂いていたと思います、何も出来ないので可愛  
がって頂いて何とかかんとか勤めていたのですが何しろまだ17歳の子供で美容業界の事を全く知らないので仕事などといったに違い  
ありません、そのうち遅刻をしだすようになり営業中へマをして先輩に叱られると塞ぎこんで無断欠勤までする有り様…  
まだ子供やから仕方ないよねと初めは笑って話してくれていた友人でしたがある日「実はうちのスタッフから結構ブーリング来ててな、俺も何とか  
かほってるんやけどもうそろそろ廻界かも知れんわ」と告げられてしまったのです。私と同じ仕事に就き何とか立ち直って貰いたいと薬にもすがる思い  
で京都に行かせた私でしたがもうこれ以上迷惑はかけれないなと感じそれから数日後辞めさせる決心をしたのでした。  
それが皮肉にも3月末辺りで普通ならば新しい門出の時期だと言うのにうちは逆に折角揃えた家財道具をトラックに載せ自宅に出戻りさせた  
時の絶望感は今でも忘れられません。

そんな私は出戻った息子に対し「もうお前の面倒は見きれんからこれからは自分の事は自分でやってくれ」とさじを投げてしまったのです。

それからは荒れに荒れまくりどこへ行ってるのやら朝起きるは毎日のように、時には何日も家に帰らない日も続きました。突き放したもののか問題を  
起こさないかとハラハラする毎日でしたがある日息子が置いて行ったライターがふと目にとまり見てみると何処かの店のロゴが入っているライターでした  
、脳が甘いと言うかその店が今働いている店だと直感で思いネットで調べてみると案の定その店のキャストに髪をモリモリにした息子の姿があったのです  
やはりそこにいたのか…

問い合わせ正すとあっさり認めて自分の事は自分でせえ言われたらこれしかないと聞きなおるばかりで本当にどうしようもない状況でした。

何でこんな事になってしまったんやろ、やっぱり幼少時の愛情が足らなかったからこんな事になってしまったんやろか、育て方が悪かったんやろか、  
自己嫌悪に陥る毎日でした。

またまた次号に続く…

